



## 幼稚園 P・T・A 協會の縣組織

— 千葉縣幼稚園 P・T・A 協會について —

千葉大學幼稚園主事

宮 内

孝

### 一、はし が き

幼児保育に関する組織的活動は他の同種のそれに比較すると相当立遅れて居り、またそのもつ特殊事情によつて制限され一般に低調である。そのうちでも P・T・A とか、母の会とかいうものゝ活動は特に低調であると推察される。即ち昨年文部省主催で行われた幼稚園小学校研究集會に於ける各県代表の發言を見ても、また昨夏の全国保育大会に東海、北陸地区から提案された協議題「母の会、P・A・T の運営及指導方法如何」の提案理由や、それに対する会員の發言によつて見ても此等のものに関する研究が殆んど行われて居らず、此等の活動形式なり活動対象なりが戦前のそれと殆んど交りがないようである。

このような時において千葉県ではいち早く全県の組織を作り上げ、着々と活動を続け、その成果を挙げて居る。既に二三の県ではこの事を知り、同様な組織を作る氣運に向つて居

り、その内容の紹介方を求めて来て居るので、こゝに一般に公表し、同様な組織が各都道府県に出来上りやがては全国的な規模にまで發展すればと念じ筆を取つて見ました。

### 二、どのようにして出來たか

昭和二十四年の六月に千葉縣幼稚園協會が新しい組織のもとに、幼稚園教育振興の旗じるしをかゝけて發足しました。そしていざ活動を開始して見ると社会の人々の幼児教育に対する理解と關心の無いことに一驚した。教育委員会自体があらゆる通知——その中には当然幼稚園に必要な事項が含まれているにもかゝらず——に「幼」の字が見出せなく、全く意識の外に忘れ去られて居る。相当教育に精通して居ると思われる人々さえも保育所との区別がわからない状態である。それ故幼児教育に対する人々の理解を深め、關心をたかめるといふ振り出しから出發しなせなければならぬ事になつた。先ず第一には全県下約五千の園児の父兄に理解してもら

い、進んでは積極的活動に参加してもらえればと願ひ各園の代表者に集会の通知を出した。その時の集会の名称は奇抜で今は役員会の時に於いての懐しい想ひ出の一つとなつて居るが、「幼稚園後援団体長会議」というのであつた。集まりがよいようにと県教育長と県総務部長との連名で通知をした。さて集まるだろうかと心配したら予期に反して殆んど全園から集り、幼稚園教育に対しては真剣で、全県の組織を作ることに満場一致で賛意を表し、実行委員を挙げて発会式の準備をすることゝなつた。其の後二ヶ月過ぎた昭和二十四年十月千葉県幼稚園協会発足に遅れること四ヶ月、盛大な発会式を行い、規約の制定、役員選挙を行つて千葉県幼稚園P・T・A協会の名称のもとに、全国ではじめて而も唯一の会が生れたのであつた。

### 三、どのようなものであるか

規約を見れば大体その性格はわかるのであるが、主だつた点を記すると、第一にP・T・A協会という名称であるけれども、それは実質的にはP、即ち父兄・母姉を主体とした会である。

従つて役員も全部Pのみで構成するよう規約にはつきりと規定している。然し構成は各施設単位であり、所謂P・T・Aを組織して居る幼稚園が大部分であるから矢張りそれはP・T・Aの協会であるわけである。

実質的にはPの総意にもとづいて行動する組織であり乍ら

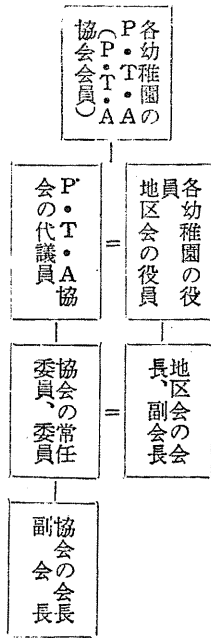
旧来の後援会や保護者会といつたようなものゝ、連合体ではなくて、新しい意味のP・T・Aとしての特徴を生かし、それに基いて活動するところに此の協会の特色があるのである。

これは幼稚園協会との関係を見れば一層はつきりする。幼稚園協会は会員（教員）の資質の向上を以て主目的とする。即ち幼稚園の内容を充実することによつて幼児教育の伸展をはかるのであり、またその爲の必要に応じて対外折渉を行う機関である。此れに対してP・T・A協会は県民の幼児教育に対する理解と関心をたかめることによつて幼児教育を振興しようとするのである。一は幼稚園自体をよくする、即ち内の条件をよくすることにおいて、他は、外的条件をよくすることにおいて幼児教育を振興しようとするのである。

此の二者は相即しているものであるが故に此の二つの協会は二而一である密接不離の關係に立ち、緊密に連絡提携しているのである。此処で問題となるのはP・T・A協会が文字通りP・T・Aの協会であるならば、幼稚園協会は不必要ではないか、双頭の鷲・両頭の蛇ではなく通常の動物でよいではないかということである。それは一応尤もな理論であり、P・T・A協会の発会式の時も出発当初にもその論をとなえるものもあつた。然しそれは現実を認識しない机上の空論であつて、発足後一年半を経過した今日斯る論はあとを絶つた。

次に組織であるが、(1)、役員は会長一名副会長二名、五つの地区から常任委員、夫々一名、各施設の会員百名またわそ

の端数につき一名づゝの代議員からなつてゐる。別に参与として、県教育長、幼稚園協会長、保育連合会長を御願してゐる。(2)、地区会は会員が多いこと、婦人が多いこと、相互に接して話し合う機会を多く持つこと、経費の点等から全県を五つの地区に分けて結成してゐる。区分は交通の便と施設数とを考へて居る。各地区会とも規約を持ち、会費を徴収し本部との連絡のもとに夫々地区独自の活動をしてゐる。役員は常任委員が会長、委員が副会長になることになつてゐる。(3)、これらの組織をわかり易く図示すると次のようになる。



(4)、幼稚園協会との連絡は各幼稚園に於いて、参与(幼稚園協会長)とを通して行ふ。

#### 四、どのような仕事をなし、また現在 なしつゝあるか

協会発足以来一年と三ヶ月、この間にどのような事をなしたか、また現在どのような計画のもとに活動して居るだろうか。これを年度別に誌すと。

(1)、昭和二十四年度。此の年度は発足したばかりなので第一に組織を強化することに重点を置いた。幼稚園によつてはP・T・A或は母の会等を持たないものもあり、また会の趣旨には賛成らしいが会費を納入しない幼稚園もある。役員会を開いても集まりがよくない。それでも中心になる人々の努力によつて約半数の幼稚園が実質的に加入し次第に組織が強化されてゆき、第一回の会報を発行することが出来た。次に幼稚園に関する公費の獲得運動である。これは主として県費の獲得に主力が注がれたが、幼稚園協会と呼応して教育委員会や県総務部等へ盛んな陳情運動を展開した。その結果としては予期した程の成果は得られなかつたけれども、当事者に今までのように幼稚園のことを考慮に入れないで事をなすことが出来ないといふことを強く印象づけるに役立つた。第三には幼稚園協会との密接な提携である。幼稚園の実体を知らなければ活動は出来ない。そのために幼稚園協会の役員との話し合いや、幼稚園協会の研究会や研究発表会に出席して新しい幼稚園のあり方や如何なる点に於いて如何に行動したらよいかを研究し、あらゆる点に於いて幼稚園協会と歩調を合せた。

(2)、昭和二十五年度。前年度が一般的に見て準備の年であつたのに対し本年度は活動の年であるといえよう。その爲に役員は原則として交替しない方針を決定した。或常任委員は年齢が不足しているにも拘らず小供を入園させ、(三年保育のない幼稚園に満三才で入園させた)また他の人は年齢の關係

で保育所に入れて居つた小供を幼稚園に入れかえたりした程の現象を起した。

重点事業としては前年度の継続である。

先ず組織の強化に於いては約三分の二の幼稚園が実質的に——毎月会費を納入している——加入し、地区会も殆んど発足して居る。

加入は地区会長の専任になつていたので未加入の幼稚園に対しては地区会長が何回も訪問するといつた熱心な地区もある。地区の役員会の会場は各園まわりもちで、会場の園ではその園のP・T・Aの役員全員出席は勿論役員でない者も参加するようになって居る。会の結果は文書で本部に報告するか会報に公開する。

このようにして組織は着々と強化されつゝある。次に公費の獲得運動であるがこれは県費と市町村費とに分けられる。県費の方は本部で担当し、主として幼稚園教育に関する経費や私立幼稚園に対する助成金の獲得がその対象である。市町村費の方は各園で行い協会が此れを応援するという形で行われる。現在予算編成期に當つて居るので活潑な活動が展開されて居る。この他本年度の事業で特筆すべきことは幼児教育振興についての座談会の開催である。千葉新聞社と幼稚園協会と合同して行い、それを新聞に掲載するのである。出席者は県教育委員一名、県教育長、県町村長会長、県教職員組合長、幼稚園協会長、新聞社から二名と県幼稚園P・T・A協会会長であつて、去る一月十一日に開催された。

## 五、どのような結果をもたらしたか

以上述べて来たことから大体どのような結果をもたらされたかといふことは此処に述べるまでもなく明かであると思ふ。只此処で注意しなければならぬことは意図した積極的活動のもたらした結果そのものよりは此れに附随して生じた結果の方がより大であつたといふことである。先ず第一に多数の父兄が幼児教育について理解し、深い関心を持つに至つた。その結果幼稚園と家庭とが深い結びつきを持ち、教育上の効果も挙げた事は事実である。第二に地域社会に於ける幼稚園に対する理解と関心が深まつた。第三に各園のP・T・A間の往来がもたらされた。第四に各園のP・T・A活動が活潑になり積極性を持つようになつた等数えきれぬ程である。具体的一例として勝浦町立幼稚園の母の会を紹介することとする。去る九月勝浦幼稚園で幼稚園協会の園長会を開いた。小学校に附属した幼稚園であるけれども校庭の一角に独立して建てられ、放送設備は完備し、其の他の設備も田舎町の幼稚園としては実によく整つていた。やがて懇親会に移ると母の会の役員総出で三味線まで持ち出して唱うやら踊るやら盛んな歓待をしてくれた。

会長の話によると「幼稚園を振興させるには、母の会の会員が心を合せてあたらなければならぬ。心を合せるにはレクリエーションを通して行うことが最もよいと考え、レクリエーションの会をつくつてしばしば実施している、今日おめ

にかけて居るのは其の一部である」ということであつた。町長さんは幼児教育に対して立派な見識を持ち、保育所との關係（町立保育所もある）なども園長さん方顔負けの堂々たる論陣を張つて居つた。酒がまわるに従つて町長さんは、「此のようなことは皆お母さん方から教わつたのですよ。お母さん方の熱心な泣落し戦術には全くかないませんよ。」と真相を告白して居つた。

## 六、どのような課題を持つか

P・T・A協会は多くの課題を持つ、然しこゝでは最も大きなもの二つだけに止めることとする。一つは政治活動の問題であり、次は幼稚園経営への干渉ということである。第一の政治活動の問題であるが、斯る団体は政治性を持たねばならないし、広い意味の政治活動は必須の条件であつて、政治活動のない団体は単なる娯楽の団体と異ならない。唯此の場合一党一派に偏した政治活動をしたならばそれは協会の目的を曲げるものであり、果ては協会の分裂破滅にまで導くものと断ぜざるを得ぬ。而も斯る傾向が生じないと誰が断言出来る。第二の経営への干渉の問題は、広義に於ける経営に参加すること当然であつてそれは是認されなければならぬ。然し具体的な人事とか教育内容に干渉することは行き過ぎと云わざるを得ない。尤も協会自体として斯ることはまれである。実際には個々の園に於て、協会を背景として行われることは当然あり得ると考えられるし、その傾向の生ずることも

十分警戒されなければならない。現に父兄に干渉される可能性を恐れてP・T・A協会加入を阻止している近視眼的な私立幼稚園もある。

以上のような課題に対決し、此れを調整して行く役割を演ずるものは幼稚園協会である。幼稚園協会と幼稚園P・T・A協会を併存させて置く一つの大きな意義をわれはこゝに見出して居るのである。

## 千葉縣幼稚園P・T・A協會規約

- 第一条 本会は、千葉縣幼稚園P・T・A協会と称し事務所を千葉大学千葉師範学校附属幼稚園内に置く
- 第二条 本会は、各団体相互の親睦と幼稚園教育の振興をはかるを目的とする
- 第三条 本会は、前条の目的を達成するために左の事業を行ふ
  - 一、各団体の連絡と親睦
  - 二、幼稚園教育の普及振興
  - 三、会員の修養向上
  - 四、千葉縣幼稚園協会との連絡提携
  - 五、其の他必要な事業
- 第四条 本会は、千葉県内P・T・A（各種後援団体を含む）を以て組織する
- 第五条 本会に、左の役員を置く  
役員任期は一ケ年とし、再任を妨げない

会長 一名 副会長 二名 委員 若干名(内常任委員若干名)

第六条 会長は、本会を代表し、一切の会務を司る

副会長は、会長を補佐し会長事故ある時は之を代理する、委員は会務を処理する

第七条 役員は、別に定めた規約により総会で選出する

第八条 本会に、参与を置くことができる

参与は、別定めた規約により総会で選出する  
参与は、委員会の議決を経て会長がすいせんする  
参与は、本会の重要事項に参劃する

第九条 本会に総会及び委員会を置く

第十条 総会は、会則、会費の変更、予算決算、その他重要事項を議決する

第十一条 総会は、毎年一回会長が召集する、但し必要ある場合は臨時に召集することができる

第十二条 委員会は、会務執行上必要事項を協議決定する

第十三条 本会の経費は、会費その他の収入を以てあてる

第十四条 本会の会計年度は、四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る

### 細則

第一条 県内を左の五地区に分ける

千葉地区 千葉市、船橋市、市川市、印旛郡

安房地区 館山市、安房郡

夷長地区 夷隅郡、長生郡、山武郡

香取地区 香取郡、海上郡、匝瑳郡、銚子市

東葛地区 東葛飾郡、野田市

第二条 本則第五条に規定した役員は、教職員以外の会員中から選出する

第三条 委員は、各地区より二名づつ選出し、内一名は常任委員とする 但し千葉地区の委員は四名まで選出することができる

第四条 必要ある場合委員会は、常任幹員会を以て代行することができる

第五条 左の通り代議員を選出する  
各団体の会員一〇〇名まで一名、百名以上百名またはその端数ごとに一名

第六条 代議員を以て総会を構成する

第七条 本会の会費は一施設団体一ヶ月百円とする

(三員より) 初対面の楽しさも厳かさも、その意味での大切さも、両方が同じ新しい心で逢うことにあるのである。新入園児のはにかみと全く同じでないまでも、それと似たものが、先生にもあつてよかろう。新しいところを来る子どもらの胸の鼓動と似たものが、新しい子らを迎える先生にもある筈である。そこにこそ、四月の幼稚園のうい／＼しさと、あざやかさが盛り上るのである。年々歳々子どもも同じでわかない。今日来る子どもは新しい子どもである。今日咲く花が、詩人の心に新しい花であるという以上の意味で。そうして、若し此の新しい四月の幼稚園に年々歳々同じものがあつたら、それは十年一日陳腐、沈滞の先生だけでもあるうか。